

## 【本科】

### ○推薦による選抜

- 推薦入学願書受付 1月 5日(火) ~ 7日(木)
- 推薦入試 1月15日(金)
- 合格内定通知発送 1月21日(木)

### ○学力検査による選抜

- 願書受付 2月 8日(月) ~ 10日(水)
- 学力入試 2月21日(日)
- 合格発表 2月26日(金)

## 【専攻科】

### ○社会人推薦

- 願書受付 11月30日(月) ~ 12月 4日(金)
- 社会人入試 12月11日(金)
- 合格発表 12月17日(木)

## 行事予定 (11月から3月)

### 11月

- 6日(金) 磐陽寮(高専祭)準備
- 7日(土) 磐陽寮(高専祭)本祭
- 11日(水) 第3回TOEIC IPテスト  
(3年生・専1年生対象)
- 14日(土)~15日(日) 全国高専デザインコンペティション  
(豊田高専)
- 18日(水) 寮防災訓練
- 22日(日) 全国高専ロボットコンテスト  
全国大会(両国国技館)
- 24日(火) 後期中間試験(12月7日(月)まで)
- 26日(木) 専攻科特別セミナー発表会

### 2月

- 3日(水) 学生総会  
専攻科特別研究最終発表会(2年)
- 8日(月)~15日(月) 後期期末試験
- 22日(月) 学生臨時休業日
- 23日(火) 月曜日振替授業
- 24日(水) 卒業研究発表会(3月1日(月)まで)  
補講期間(3月5日(金)まで)
- 25日(木) 再試験期間(3月5日(金)まで)

### 3月

- 2日(火) 終業式
- 8日(月) 専攻科特別研究公開発表会(2年)
- 18日(木) 卒業証書授与式  
(アリオス)  
修了証書授与式

### 12月

- 24日(木) 冬季休業開始(1月5日(火)まで)
- 26日(土) 学校閉鎖期間(1月3日(日)まで)

### 1月

- 6日(水) 授業開始
- 12日(火) 月曜日授業振替
- 13日(水) 学習到達度試験  
(3年生対象、ただしコミ科除く。他学年は臨時休講)
- 15日(金) 推薦入試(学生臨時休業日)
- 27日(水) 専攻科特別研究中間発表会(1年)

## 編集後記

学校だより第87号では、平成21年度に行われ  
ました主な行事に焦点を当て記事にしました。

これまでの誌面と大きな変更はありませんが、  
以前行ったアンケートで好評であった「インター  
ンシップ報告」については、写真を増やし、学生  
の活動をより分かり易くしました。

本校学生の活動・活躍の紹介は、本誌以外にも  
ホームページを通して行っておりますが、今後も  
これら2つの媒体を用いて、誌者の皆様に生き生  
きとした学生の姿と、それを支える教職員の姿を  
お伝えしていきます。

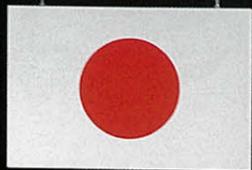


## Contents

- 02 校長 入学式辞
- 04 三主事あいさつ
- 06 各科の近況 [本科]
- 08 各科の近況 [専攻科]
- 09 インターンシップ報告 [本科]
- 14 インターンシップ報告 [専攻科]
- 16 ミニ研究発表会
- 18 21年度1日体験入学を終えて
- 20 学生の活躍
- 25 ロボコン・プロコン
- 26 部活動紹介
- 28 新任教職員紹介
- 30 とびっくす



# 祝 福島工業高等専門学校入学式



## 第48回入学式

Entrance Ceremony 2009.4.5



### 式辞 学校長 奈良 宏一

新入生214名、留学生4名を含む編入学生10名、専攻科生25名の皆様の福島高専への入学、誠におめでとうございます。本日、桜のつぼみのように胸一杯に夢を膨らませた多数の新入生諸君を福島高専に迎えることができ、教職員、在校生一同、大変喜ばしく存じております。

皆様が入学される福島高専は、今から47年前の昭和37年に、日本で最初に、他の11の高専と共に創立された高専の一つです。福島高専は、この47年間に、およそ6,500名の創造性と実践力を併せ持つ技術者を産業界に送り出してきました。今後も、個性化、活性化、教育・研究の高度化を進め、創造性と実践力を併せ持つ卒業生を社会に送り出していくつもりです。

福島高専では、教育理念、学習・教育目標、養成する人材像、卒業時に身につけるべき学力をきめ細かに決めています。教育理念の第一は「広く豊かな教養と人間力の育成」、第二は「しっかりした基礎力に基づく創造性と実践性の育成」、第三は「国際性とコミュニケーション能力の育成」です。

技術者が作る製品は社会に大きな影響を与えます。皆さんは、自らの能力や技術力で作った製品が社会にどのような影響を及ぼすのか、自分は何をして良いのか、何をしてはいけないかを判断できるだけの教養と倫理観を身につける必要があります。幅広い教養と人間力を養ってほしいというのが、教育理念の第一です。

創造性豊かな優秀な人材は、日本が持つ貴重な資源の一つです。日本は、今後も、優れた人材と優れた技術力によって新しい世界を創造していかねばなりません。専門基礎力と実践的実験・実習を重視して、皆さんに創造性と実践性を備えてもらいたいと思っています。これが教育理念の第二です。教育理念の



第三番目の国際性とコミュニケーション能力です。皆さんが社会で活躍する時代は、何事も地球規模で考えねばならない時代です。異なった環境に住む人々の考え方を理解したうえで、相手に尊敬の念を抱きながら情報交換できるだけの知識と教養を身につけていただきます。

これからの、5年間の勉学において、皆様は次のことに注意をして勉強して下さい。

第一に、学校で定められた規則・規律を守り、自律的に皆が学校で快適に生活できるように努力して下さい。第二に、自ら疑問を持ち、自ら調べ、わからないところを質問する姿勢を保って下さい。第三に、課外活動を楽しんで下さい。文化部やスポーツ部に所属し、集団での活動能力を身につけて下さい。第四に、何でも語り合える友人を作ってください。友人との語らいが皆様の人間力を育むことにつながります。

高専では入学された皆様に、この先、さまざまな進路を提供しています。自分が進む先を見据えながら、夢と希望を持ってこれからの勉学に励んで下さい。

次に、専攻科への入学生諸君。諸君は、本科5年間で修得したことを基礎に、さらに高度な基礎科目と専門科目を学ぶことになります。

専攻科にも、本科と同様に修了時まで身につけるべき六項目の能力を決めています。特に、本科と違う点は、地球的視野で考えられる能力、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力、新しい産業技術を創造できる能力を持つことです。なぜそうなるのかということまで含めて、身につけた知識を自分の中で融合させ、応用することができて、初めて、目標が達成できます。将来の自分の進路や姿を今から考えて、計画的に勉強してください。

最後に、新入学生諸君全員には、本校を巣立つまでに、本校の教育理念にある人間力、創造力、コミュニケーション能力を身につけられるよう、日々健康に気を付けながら、元気に自律的に勉強努力し、大きく成長して、社会に、大学に、大学院に進んでいけるよう祈念して式辞と致します。

# 三主事あいさつ



## 「創造性」と「実践力」

教務主事 根岸 嘉和

本校の正門前には「創造と実践の福島高専」のモットーが掲げられています。

創設期からの高専という教育機関の目的は、中堅実践技術者の養成でしたが、時代が移り社会が変化した今は、豊かな創造性を備えた高度実践技術者の輩出が全高専共通の目的となっています。

まず、高専卒業生の「実践力」については従来から高く評価されており、論語の「学びて時にこれを習う(実践する)、亦説ばしからずや」を即戦力として実行してきていると言えるでしょう。

さて、今、強く求められている「創造性」についてですが、「数学者で大道芸人」として有名なピーター・フランク氏は「教わったことはすぐ忘れるが、調べたことの中には憶えている事もある。しかし、自分で発見したことは決して忘れない。」と言っています。「受け身の授業」だけでなく、「能動的な自学・自習」、さらには「意欲的な研究・開発」が必要だということです。

学生諸君は是非、あらゆる勉学の機会を捉えて、知識・技術を新しい「モノづくり」に活用できる「知恵」を体得し、「創造性」を身につけて下さい。

## 高専と専攻科への企業からの一要望

専攻科長 根岸 嘉和

今年度の全国高専専攻科実務者会議で、特別講演講師の建設機械メーカーの方が、「最近の高専・専攻科卒業生に望むことは何ですか？」との質問に、「大卒も含め、基礎学力の充実。特に『力学』は公式の丸おぼえで、原理・原則を理解していないので先輩と技術的な議論ができない。これは企業にとってボディーブローのように効いてきて、やがて大きなダメージになる。」と言われ、それから「海外に出て仕事をしようという気概と、少々の事ではくじけない精神的タフさをもって欲しい。」と言っておられました。

本校専攻科でも学生諸君に、「実務の基盤としての基礎学力の充実。」「海外業務を視野に入れた将来展望と、その裏づけともなる英語力の増進。(専攻科修了要件はTOEIC400点ですが、大卒は500点、企業は600点が基準)」、「インターンシップ、国際会議を含む学会発表など、各種研修を通じての自信と精神的強靱さの養成。」を強く望むところです。

今年度も専攻科2年生は「学位授与申請」のため、学位授与機構に「研究レポート」の提出を終え、「小論文試験」に向けた準備の段階ですが、「全員学士合格の伝統」を死守してもらいたいと念じております。



## 夏季合宿についての再検討

学生主事 西山 公紀

全国高専体育大会において、直前の合宿中止にもかかわらず、卓球女子ダブルスや水泳男子自由形400mで優勝者が出たことは大きな喜びです。

現在、学生委員会は夏季合宿について再検討を行っています。合宿センターの収容人数(ベッド数:38)に対し、卒業研究、ミニ研究、集中講座等の教務関連の学校行事のため、合宿を希望する寮生が年々増加し、合宿センターを利用した従来の方法は限界にきています。また、全員がセンターの一室に居住する方式は、感染症予防対策が難しいことも検討理由の1つとして挙げられます。

次に、生活指導に関して、学生委員会が特に問題視しているのは学校施設の破損です。残念ながら、教室や廊下の壁の破壊やカップ麺の残り汁を給水器やトイレの洗面台や便器に流して詰まらせる身勝手な行為が見られます。社会の規則を守る心、他人への思い遣りの心、自律心の育成は本校の教育理念ですが、保護者の皆様のご協力のもとに学生にとって快適な学習環境を構築したいと願っております。



## 若葉寮の改修工事について

寮務主事 高野 克宏

昨年度に引き続き、寮務主事を務めております高野です。どうぞよろしくお願いいたします。

去る8月末、高専機構本部から「留学生受け入れ数増大のための寄宿舍リニューアル事業」の募集があり、若葉寮の改修計画案を作成して予算要求を行いました。審査の結果、このプランが認められ、改修工事が実現する運びとなりました。

若葉寮内の一部を男子留学生用の区画として整備することによって、空室となっていた居室の有効活用を図ります。加えて、女子留学生用の居室および女子寮生用トイレ・洗面所等の改修を行って、生活環境の改善を目指します。これによって男子寮の定員にも余裕を生み出すこととなり、継続して入寮を希望する男子上級生をこれまで以上に受け入れることが可能となるでしょう。留学生や女子寮生ばかりではなく、男子寮生にとっても大きなメリットのある改修となる予定です。

昨年度のアスベスト除去工事に続いて、今年度も若葉寮を対象に大掛かりな工事が実施されることとなりました。寮生と保護者の皆さんには多大なご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

# 各科の状況 [本科]



## 一般教科の近況

一般教科長 鈴木 三男

一般教科は主に1・2年の低学年の学級担任を担当し、専門教育のための基礎教育を行っています。最近特に感じるのは、自らの基礎学力が不足しているにも関わらず、その自覚が薄く、他力本願な学生が増えてきたことです。また家庭での自学自習が不足し、試験直前の試験対策だけの学習で、自己満足している点です。一口に「ゆとり教育」の弊害と言ってしまうと、それまでなのかもしれませんが、卒業後の社会はそれほど甘いものではないので、社会で活躍するためにも学生各自の努力は不可欠です。

一般教科の先生方は、少しでも学生の実力を伸ばそうと、授業の工夫とともに理解しやすい教材作成など日々努力しています。また、学生に自力で解決する能力を身につけさせるため、課題、ドリル演習やレポートを課し、分からない学生には放課後も熱心に指導しています。その一面は2年生の「ミニ研」でも見られ、夏休み中も親身に指導されている多くの先生の姿が見受けられました。



## 機械工学科の近況

機械工学科長 渡辺 敏夫

昨年度末、天野耀鴻先生が急に日本大学工学部に異動されることになり退職されました。その後任に中国、湖南省出身の鄭耀陽先生が福島大学より赴任されました。先生の専門はロボット工学で、今後機械工学科の教育、研究に貢献頂けるものと期待しています。

今年の機械工学科の進路状況は、5年生34名のうち18名が就職、16名が編入希望です。就職先は順調に内定を受け、また、編入先も順調に決定して現在それぞれの進路先で各1名が未定です。

機械工学科ではモノづくり教育を重要視して、学生たちには自分で考えて考えたモノを具体的な製品にする力がつくように、教育プログラムを考えています。このようなときに今年、文科省に申請していました「大学教育・学生支援推進事業、大学教育推進プログラム『異学年協働によるループ型創造性実践教育』」が採択されて、今年度から事業が開始されることになりました。すでに採択されています「企業技術者等活用プログラム」と併せて、非常に心強い支援で、さらにモノづくり教育の充実を図ることができるものと期待しています。

機械工学では多方面にわたる技術が要求されますが、基礎となるモノづくり技術を基本にして、役に立つ人材を育てることができるように、教職員一丸となって進めていきたいと思っています。



## 電気工学科の近況

電気工学科長 大槻 正伸

今年度電気工学科棟は耐震補強を中心とした改修工事を行っています。先生方の研究室は一時的に学校内にばらばらに配置されており、また学生実験室も臨時で図書館棟内になるなど、学生も教職員もやや不自由な環境で業務をこなしております。また老朽化した高電圧実験装置、各種電動機等を新しくする予算もつきましましたので、今後は学生諸君はよりよい環境で実験、実習に取り組めるものと思っております。改修工事そのものは今年いっぱいでの終了の予定ですが、実際には引越しや機器の調整などもあり、新しい環境での本格的な活動は新年度からとなりそうです。

さて、このような環境での生活ではありますが、担任の先生方のご指導のもと、5年生の進路もほぼ決定し、4年生の校外実習も無事に終了するなどの成果をあげております。後期は学年学科行事で4年生の工場見学をはじめ各学年で例年通り実施する他、磐陽祭（高専祭）など重要な行事がひかえておりますので、ひとつひとつ着実に実施して成果をあげていきたいと考えております。



## 物質工学科の近況

物質工学科長 青柳 克弘

今年度の物質工学科のスタッフは、常勤の教員では、長年に渡り化学工学系の科目をご担当になり、本校、本学科の教育・研究にご尽力いただいた大澤英一先生がご退職になり、(株)クレハ技術・研究本部特認シニアリサーチフェローの熊沢智先生（有機工業化学）をカリキュラム変更の関係で、2年ぶりに非常勤講師にお迎えしております。

昨年度から全面改修した新しい物質工学科棟で、学生実験、卒業研究等が行われております。平成22年1月23日には、本校主催で、いわき市文化センターを会場に「高専シンポジウムinいわき」が開催されます。全国の高専の学生や教員が一堂に会して研究成果を発表することにより、交流を深めるもので、発表に向けて物質工学科、物質・環境システム工学専攻の学生や教員も頑張っております。5年生の進路希望は、就職と進学がほぼ半々で、進学は例年通り順調に決定していますが、就職は不況の煽りで厳しい状況です。それでも、他の大学等に比べたら善戦しており、今年度中には、全員の進路を決定したいと思っております。



## 建設環境工学科の近況

建設環境工学科長 山ノ内 正司

学科の近況を報告いたしますと、著しく成績を向上させた学生の努力を讃える「建設環境工学科賞」は、旧2年生1名、旧3年生2名に授賞しました。

次に、5年生40名の進路状況ですが、就職希望者22名のうち15名が内定しています。残り7名は公務員試験の結果待ちです。一方進学希望者18名全員が合格しており、大学編入学13名、本校専攻科5名となっています。

本年度は第2期中期計画を策定する年に当たります。学科としてまず最優先に掲げた目標は、いかにして学生の基礎学力を向上させるか、ということでした。掲げた20数項目の中心は、(1)これまで以上に教員全員が授業評価と学科FD会議を通して授業改善に努めることはもちろんのこと、(2)新たに補講プログラムを作成し勉学支援の充実を図り、(3)他高専の土木系学科と専門科目の共通試験の実施を目指す、ことです。(3)については、平成23年度の実施に向けて他高専と連携を図りながら進めていきます。



## コミュニケーション情報学科の近況

コミュニケーション情報学科長 森川 治

平成21年3月に高橋雅也先生が転出されました。後任として4月に田淵義英先生を現代G Pプロジェクト担当教員としてお迎えしました。最終年度を迎えたプロジェクトでの活躍が期待されます。

4年生の大多数の学生が実務研修を夏期休業中に行いました。この経験が来年度に大いに役立つものと期待しております。

5年生38名の進路希望は以下の通りです。(9月30日現在)  
(1) 民間企業 7名 (2) 公務員 3名 (3) 進学 28名  
今年度は進学希望者が圧倒的に多いのが特徴です。  
今年の就職戦線は厳しく、最初民間企業を希望していた学生のうち進学に変更した学生が数名おりました。6名が内定を頂いている状況です。公務員希望者は受験が終了し、結果待ちの状況です。一方、進学希望者のうち12名は国立大学（専攻科9名を含む）に合格しています。大学編入学試験の本番を間近に迎え、学生達の希望がかなえられるように教員一同一生懸命指導に当たっている所です。

# 各科の状況 [専攻科]



## 機械・電気システム工学専攻の近況

機械・電気システム工学専攻長 渡辺 敏夫

今年度は1年生11名の学生が入学し、2年生8名と併せて本専攻では19名の学生が勉学に励んでいます。専攻科の運営も軌道に乗り、学生諸君たちはそれぞれのテーマの研究を中心に、予定されたプログラムをこなしながら、充実した日々を送っています。今年の2年生の進路も順調に決定しています。2年生8名の進路は、6名が就職（NTT-NE、三菱重工、東京電力（3名）、日立化成）1名が自営、1名が進学（筑波大学）で全員が内定しています。

1年生はインターンシップを8月～9月のうちの1ヶ月間実施しました。今年は一部の学生が原子力関係のテーマで京都大学と東京電力で実施することができました。この他にも、地元の企業を中心に、いろいろな企業でインターンシップをさせて頂きました。学生に聞くと非常に有益になったとの返事が返ってきました。これらの経験は今後の学業や進路を考える上に参考になったことと思います。

専攻科は人数が少なく、学生にとって自分の居場所を確認でき、それが更に意識を高めて励みに通じていると思われまます。専攻科が更に充実するように教職員一同努力していきたいと思ひます。



## 物質・環境システム工学専攻の近況

物質・環境システム工学専攻長 山ノ内 正司

最初に専攻科生の進路状況について申し上げますと、就職希望の7名の内6名は希望する会社から内定を頂いており、進学希望の2名は東京工業大学大学院に合格しています。専攻科から大学院へ流れが徐々に太くなり、より高度な研究を目指す専攻科生が続いてくれることを期待しています。

専攻長として2年目を迎え、最も強く感じていることは、大学の3・4年生に相当する専攻科生が、専攻科教育プログラムの中で本当に良く頑張っていることです。

一つには、本専攻2年生の石沢貴教君が、平成20年度の土木学会東北支部技術研究発表会において、研究奨励賞を受賞しました。その多くが大学院生である中で、唯一専攻科生で受賞したことは、特別研究の質の高さを示すと言っても過言ではありません。

また、1年生のインターンシップでは、3～4週間の中で大きなテーマに取り組んできた学生も多く、その専門性は高く評価されています。



## ビジネスコミュニケーション学専攻の近況

ビジネスコミュニケーション学専攻長 脇田 淳一

1年生は4名が入学し、オーストラリアに留学していた1名が加わり、計5名でスタートしました。研究室も決まり2年間の研究活動を開始しています。夏期休暇中に長期インターンシップがありましたが、インフルエンザが心配されたものの何事もなく無事終了し、新鮮な刺激を受けて戻ってきました。10月2日にインターンシップ報告会が行われ、活発な質疑応答が交わされました。また、特別研究の第1回中間発表会が10月14日に行われました。

2年生2名は、9月24日に特別研究の第3回中間発表会を行いました。研究内容の充実とともに、プレゼンテーション技術も向上し、質の高い研究発表でした。また、学位授与機構への学修レポート提出も終了しました。進路は両名とも就職希望で、1名は企業が内定し、もう1名は就職活動中で、近々進路が決定するものと考えています。

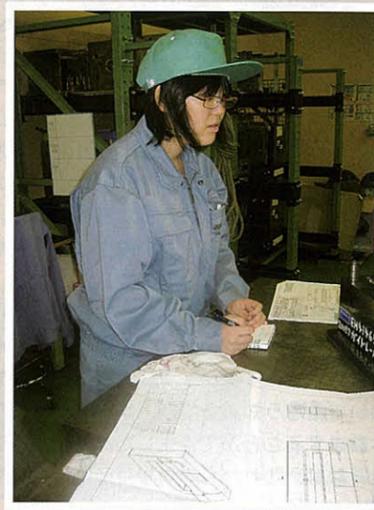
今後も専攻科の教育・研究にご理解と御支援をいただけますよう宜しくお願いいたします。

# インターンシップ報告

## 夏季インターンシップに参加して

機械工学科4年 青木 理英

今回、私は金型というものに非常に興味を持っていたので、金属彫刻による技術で金型をはじめ、ダイカッ



トなどのモノ創りを行っている江東彫刻と、金型を用いてプラスチックの射出成形を行っている村松製作所にインターンシップを受け入れて頂きました。

江東彫刻では、NC加工や形彫放電、ワイヤー放電加工の見学や、みがき、金型の組立、製品計測、手仕上げの見学実習、村松製作所では、製品の品質検査の見学実習をさせて頂きました。

機械についての説明をして頂くだけではなく、実際に体験させて頂いたり、また、社会人としての礼儀も教えて頂いたりしました。

特に、機械を使うということについて、ケガをしないように、安全にということを強く教えて頂きました。

今回の江東彫刻と村松製作所へのインターンシップによって、機械に対する知識だけではなく、仕事としてモノ創りを行うということの考え方、社会人としての姿勢や礼儀、そして金型に対する興味を更に持つことができました。

これらは本当に、私にとってかけがえのない財産となりました。

将来、進路選択を行う際の重要な一つとして、考えていきたいと思っています。

## 私のインターンシップ

機械工学科4年 荒木 大輔

今回、私がインターンシップを行わせていただいた会社では、主に携帯電話などのスイッチなどにめっき加工を施していました。

工場では、めっき加工をする機械が並ぶラインを管理する生産課、めっき加工した製品の検査をする品質保証課、めっき加工に必要な部品や溶液を作り、検証する技術課の3課所がありました。

生産課では、めっき加工を施した製品を巻き取る作業を行いました。巻き取り作業では、めっきが終わった端に貼るフィラメントテープというものをお客様に取りやすいように、先を折って貼るといった対応が印象に残りました。

品質保証課では、製品の検査を行いました。検査にはいくつかの項目があり、数値を見て確認するものもありますが、目で見て確認する官能検査が重要であ



ることを教えていただきました。

技術課では、工場での廃液をどのように処理しているか、工場で使用する部品作りの手伝い、溶液の作成



と検証の手伝いを行いました。

どの課にも共通することがありました。それは挨拶と期限を守ることでした。会社では挨拶が出来ないと仕事を任せてもらえない、辞めさせられる場合もある。期限を守らなくても同様です。5日間実習を行い、挨拶と期限を守ることが社会に出て大事だということ学びました。また5Sという整理整頓を徹底することにより、仕事効率を上げる目的の会社全体の試みがありました。確かに、勉強を行う際でも、整理整頓していた方がはかどります。上記で示したものは学校で注意されることであるが、社会では当たり前に出るなければならないものだと学びました。

インターンシップでは、貴重な経験をさせてもらえたり、気付かされる事が多々ありました。

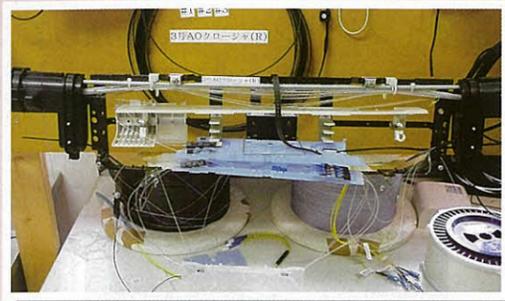
## NTT東日本でのインターンシップ 電気工学科4年 鈴木 将 敬

この夏、私はNTT東日本でのインターンシップに参加しました。NTT東日本でのインターンシップには、7名の学生が参加を希望したにもかかわらず、全員が受け入れてもらえました。

インターンシップでは、座学よりも見学や実習をする時間のほうが長くとられました。また、実際の仕事を体験するのではなく、設備と業務の見学を多く行いました。見学では、普段見ることのできない設備をたくさん見ることができました。電話の交換機、光ファイバーケーブル、とう



道という通信ケーブル用の地下トンネルなどです。また、実際に電柱間に光ファイバーケーブルを架けるところや電線修理を見学しました。実習では、光ファイバーケーブルの接続とルータの設定を体験



しました。光ファイバーケーブルの被覆の中には、非常に細いガラスの線が通っており、それを3つの方法で接続しました。この事はインターンシップでの経験の中でも、特に強く印象に残っている体験です。

NTT東日本でのインターンシップは、退屈することの無い、非常におもしろいものでした。また、NTT東日本の皆さんは僕たち学生に非常に親切にしてください、とても良い環境で学ぶことができました。

NTT東日本でのインターンシップでは、学校では学ばないであろう知識を学び、学校では出来ないであろう体験をすることができました。インターンシップで得た経験は、これからの学校生活で活かしていきたいと思っています。

## インターンシップ報告

電気工学科4年 渡 辺 卓

私は8月31日から2週間、楡葉町の東京電力 福島第二原子力発電所で、インターンシップをさせていただきました。



1週目は、福島第二原子力発電所に入

所した人が必ず受ける、原子力発電の概要や社内のルールなどを学ぶ入所時教育を受けたり、モータ・ポンプの分解・組立、放射線の測定等の技能訓練を体験したりしました。2週目は、福島第一・第二原子力発電所や広野火力発電所、エネルギー館の施設を見学させていただきました。また、当直研修で原子炉建屋・タービン建屋の見学をしたり、私と同年代で働いている方と敷地内をパトロールしたりしました。

インターンシップの前は、原子力発電所では放射性物質を扱うので、大きな危険を伴う仕事であるとか、社員の人は椅子に座りながらやる仕事が多く、体をあ

まり動かさずに仕事をしているというようなイメージがありました。しかし、実際の現場に触れてみて、放射性物質は深層防護の考え方によって、とても厳重に管理されていて、ほとんど人体に影響がないことがわかりました。また、原子力発電所で働いている人達は気温30℃以上の建物の中で2時間以上作業したり、シフトによっては一晩中原子炉を操作したりするなど、体力的な仕事も多いことがわかりました。

今回のインターンシップを通して、今まで漠然としていた原子力発電に関する知識を深めることができました。また、仕事をすることで、人とのコミュニケーションが大切であり、そのコミュニケーションの始まりが「あいさつ」であることを学びました。このインターンシップで得た経験を、今後の高専での勉強や自分の進路に生かしていきたいと思っています。



## 2009夏

物質工学科4年 瓜 田 裕 之

私は、今夏インターンシップで埼玉県熊谷市にある株式会社クレオという洗浄機メーカーに行ってきた。はじめは知らない土地に一人で出向き、まったく知らない人たちと一緒に2週間生活することに不安な気持ちでいっぱいでしたが、社員の皆さんも実習生もとても親切な人ばかりで、すぐにその不安な気持ちはなくなりました。

日程は、1週目は物質系の実習、2週目は機械系の実習と分けられていました。

1週目の実習では、会社が実際に市販している洗浄機を使用して、洗浄に使用した洗剤がどのくらいすす



げているのかをすすぎ温度やすすぎ時間などを変えながら実験しました。普段は一緒に行うことのない機械科や電気科の学生と協力しながら、充



実した実験を行うことが出来ました。

2週目の実習では、会社の夏祭りで使用するコンロ作りと自主制作を行いました。機械系の作業をするのははじめてだったので戸惑いましたが、実習生の仲間たちと協力しながら作業を行い、ものづくりの楽しさを改めて実感することができ、自分自身にとって非常に良い経験となりました。

今回インターンシップに参加して、高専で学んでいる技術が現場でどのように役立つのか実際に経験することができたこと、インターンシップに参加していなければ絶対に会うことのなかった最高の仲間たちと出会えたことが私自身にとってかけがえのない財産となりました。2週間というわずかな期間でしたが、一生の思い出となる充実した日々でした。インターンシップに参加した2009夏は私にとって最高の夏になりました。

## みえてきた課題

物質工学科4年 鈴 木 悠

今年の夏、私は錦町にあるクレハ分析センターへインターンシップに伺いました。クレハ分析センターは、水質や食品に含まれる農薬、製品に悪影響が出る物質が含まれていないかなどを調べる分析専門の会社です。

私が配属されたのは技術試験室と無機試験室で、水道水に中性洗剤が含まれていないかを測定したり、様々な機器を使用して金属分析を行ったりしました。得られた結果は良好でしたが、インターンシップを行ったことでみえてきた課題もあります。



今まではただノートを取って机に向かい、テストに向け勉強をするだけでしたが、これからはそれを仕事に生かしていかなければなりません。実際に今回

の実習でも、教科書で勉強しただけの機器を操作する事が何度もありました。その度に使い方や得られた結果の処理に戸惑い、勉強を全て生か



しきれないまま終わってしまうという事実に行き当たりました。職場の人たちが慣れた手つきでテキパキと測定をしている脇で、何もできないでいる自分に気がずかしさを覚えました。

私には回転の速い思考も、徹夜をして勉強する体力もありません。ですが、今自分にできる精一杯の努力をし、より多くの知識を吸収してそれをしっかりと生かせるようなエンジニアになりたい、と今回の実習を通して強く思うようになりました。(休憩を取りつつ)努力を積み重ね、精進したいと思います。

最後になりましたが、経験不足な私を温かく迎え入れて下さったクレハ分析センターの皆さんに感謝いたします。ありがとうございました。

## ～気づき～

建設環境工学科4年 荒玉 菜奈

正直、ここには書ききれません。それぐらい濃い二週間でした。

私は今回、東京にある三菱地所藤和コミュニティという会社に行ってきました。業務内容としては、主にマンションの管理です。現場では建物診断や日常点検を行い、社内では工事のための見積り作成や診断報告書の作成などを行いました。誰一人、嫌々仕事をしている人はいなく、和気藹々としていてすごくいい雰囲気の職場でした。



「意味のない仕事はない」これは担当してくださった1人の社員の方が私におっしゃってくれた言葉です。どんな雑務でもその仕事には意味がある。誰かのためになっている。この言葉を聞いて、私は自然と頑張ろうという気持ちになりました。

タイトルである～気づき～とは、この会社が決めた今年のインターンシップのテーマです。二週間のインターンシップを終えた今、このテーマの通り私はたくさんを感じ、たくさんことに気づくことができました。

初めての一人旅。最初は不安で仕方なかった。しかし、職場のアットホームな雰囲気、そしてなにより同じ高専生という仲間のおかげでこの二週間、とても充実した時間を送ることができました。

今回のインターンシップで学んだことは、数え切れません。働いている方の生の声を聞くことができたし、いろんな地方の高専生にも出会うことができました。このインターンシップで過ごした時間、そして出会った人たち、それは一生忘れることがないでしょう。こんなに素敵な経験をさせていただいたことにとても感謝しています。これから就職活動を行う上でこのインターンシップで学んだことを生かして頑張りたいと思います。

## アクアラインに行っ

建設環境工学科4年 渡邊 和英

今回のインターンシップで私は、千葉県の本木津市にある、東京湾アクアラインに行き参りました。まず、私が最も苦労したのが宿泊先の手配と交通手段の確保です。

宿泊先のホテルは金銭面や、宿泊期間・時間帯も考え、ビジネスホテルが妥当であると考え、袖ヶ浦駅に近いホテルだということで、ゆたか旅館というホテルを手配しました。交通手段が厄介で、千葉までいわきからの高速バスがないわけですから、東京までバスで行き、その後は東京駅から電車で袖ヶ浦駅まで行くことにしました。一人での移動は正直、時間が長く感じたのですが一人旅もなんだか悪くはなく、東京駅ではどのように電車に乗るのかと何回も訪ねました。なんとかして袖ヶ浦駅に着くと、ゆたか旅館は駅周辺にいくつかあることを現地で知り、しかも手配したホテルはいくつかあるゆたか旅館のなかでも駅から最も遠く、大量の荷物を持っている初日の徒歩での移動は困難を極めました。移動・宿泊先の手配などでは、自分の計画性のなさを改めて見直すきっかけになるいい



体験でした。

本題のインターンシップの内容は、職場体験をメインにという形ではなく、現場見学や道路舗装・トンネル工事・ETCなどの講習中心で自分の知識には成り

得ましたが、少し物足りなさがありました。しかし、アクアラインを実際に見学し、立ち入り禁止場所や橋の橋脚内部に入れたこと、風の塔と呼ばれるトンネルの通気口にあたる、高さ90mにも及ぶ塔に登れたことはここに就職しない限りは二度とない、貴重な体験でした。事務所の方たちもとても優しく、丁寧に私の質問に答えてもらえたので、感謝の気持ちでいっぱいです。建設の後輩のみなさんにはぜひ、この職場を選択していただきたいです。



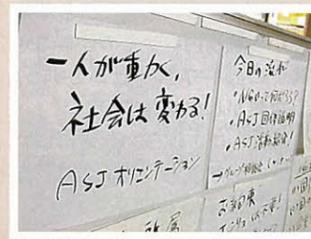
## インターンシップ報告

コミュニケーション情報学科4年 鈴木 基代

私は、8月10日から23日まで新宿に滞在し、ASEED JAPAN (以下、ASJ) という国際青年環境NGOの事務局で、インターンシップを行いました。

ASJは、「一人が動く。社会が変わる。」という理念を掲げ、活動しているNGO (非政府組織) です。プロジェクトの一環として、夏の音楽フェスで、来場者にごみ分別の提言活動を行っているので、ご存知の方もいらっしゃるのではないのでしょうか？

インターンシップでは、主に事務作業を行いました。終わりの方では、オリエンテーションを開催する側に



回ったり、夜10時過ぎまでのディスカッションに参加したり、理事会に出席させて頂いたりしました。話し合いは白熱していて、言葉が持つ情

熱を感じました。時間を忘れるほど楽しかったです！

ASJは、同年代の方が多いため、話が弾み、休みの日には観光に連れて行っていただいたり、



3年後はあんな風になりたい！と尊敬したりと、たくさんの人との出会いがありました。

その反面、同年代の方がしっかりとした意見を持ち、組織を動かしていることと、各プロジェクトの成果と個人のスキルの高さに圧倒されました。自分に足りないものを身をもって感じ、とても悔しかったです。これからは、一層勉学に励むと同時に、自分の興味のある分野を追求し、いつか、対等な関係になりたいです。

最後になりますが、ASJでのインターンシップを実現でき、本当に幸せでした！ASJ事務局・ボランティアの皆さん、松江先生、ありがとうございました。

尚、今回はインターンシップの感想ということで執筆致しましたので、ASJについての詳細は、webでどうぞ！ <http://www.aseed.org/>

## テレビ局でのインターンシップ

コミュニケーション情報学科4年 山内 恵

私は8月24日から28日までの5日間、福島市にある株式会社テレビユー福島制作報道局報道部にてインターンシップを行いました。制作報道局報道部は主に、お昼と夕方のニュース番組を制作している部門であり、毎日起る事件事故、イベント等取材しニュースとして伝える部門です。私は今回、取材同行や原稿作成体験、スタジオ見学など様々な体験をさせていただきました。

取材同行では、県内各地に取材に行く記者の方やアナウンサーの方、カメラマンの方に同行させていただきました。実際に取材する現場を見学しながらカメラマンの方の手伝いなども行いました。そして、取材したニュースは番組で流すために編集されます。取材を行った記者の方やアナウンサーの方とカメラマンの方が原稿に



合わせて映像を編集し、字幕や音楽などをつけます。

原稿作成体験では、実際に取材に同行させてもらったニュースの原稿を記者になったつもりで書かせていただきました。そして実際に書いた原稿を記者の方に見てもらい、多くの指摘やアドバイスをいただきました。数字を入れたり言葉を言い換えたりすることでより分かりやすくなることや、段落などに気をつけアナウンサーの方が読みやすくすることも大切だと教えていただきました。

これらの体験の他に報道部内の方々に多くの質問をさせていただき、その都度とても貴重な答えをいただきました。

今回のインターンシップはテレビに対する考えが180度変わる体験となりました。この体験を生かし、今後の高専生活や進路に生かしていきたいと考えています。お忙しい中私のために時間を割いていただいた制作報道局報道部の皆様には心から感謝しています。

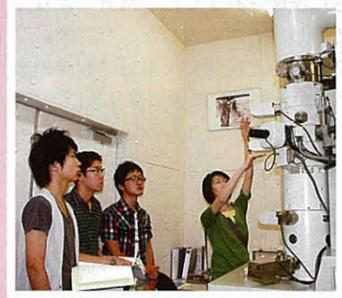


## 京都大学と東京電力での インターンシップ

機械・電気システム工学専攻1年  
折原 陸

私は「原子力人材育成プログラム」の一環として、京都大学エネルギー理工学研究所と東京電力の福島第二原子力発電所にインターンシップに行ってきました。原子力人材育成プログラムとは、近年の原子力分野における詳しくは文部科学省のHPをご覧ください。

京都大学は、新しい原子力発電（核融合発電）の実現のための研究を行っています。今回のインターンシップでは、その研究の実験の一部を体験させていただきました。



また、大学教授の講義も受けてきました。福島高専では行うことのできない実験や観察、受けることのできない専門的な講義を受けることができ、

とても勉強になりました。大学院生と接する機会も多く、学校生活や私生活、就職活動の現状を聞くこともできました。大学院生の研究に対する姿勢はとても素晴らしいもので、かなり刺激を受けました。



東京電力では、発電所内の見学や入所時研修、発電設備の概要や各部署の業務内容の説明を受けました。一般の見学者では入れない深層部まで見学することができました。また、各部署の現場で働いている方々から業務内容やその仕事のやりがい、辛かった事を聞くことができ、「仕事をする」ことが少し分かったような気がします。

このインターンシップを通して、原子力発電について多くのことを学びました。大学院と一般企業の両方を見学し、両方に魅力を感じました。

進路に悩む今日この頃です。

## 長期インターンシップを終えて

物質・環境システム工学専攻1年  
渡部 雄大

今回私のインターンシップを受け入れてくださった会社「東京建設コンサルタント」は河川計画、河川構造物など河川系の業務が武器の建設コンサルタントであり、技術士の人数は社員458人のうち168人とたいへん多く、ISO9001、ISO14001などの認証も受けている会社です。私は、自分の研究分野に近い環境防災研究所という部署に配属させていただきました。そこは防災・減災のための河川計画・河川管理などの手引を作成する業務を行っているところです。

今回のインターンシップにおいての目的は、4週間という長い実習を通して、学校で学んできたことや習得した技術などが、

実際の会社の業務にどのように活かされるのかを知ることや、学校の勉強だけでは学ぶことができない業務の中身を生で感じることで、実



践的な考え方を身につけることであり、現地調査に行き、調査の際の留意点などの説明を受けたり、さまざまな業務を行っていく中、新鮮な体験ができたことでその目的を達成させることができました。

また、休憩中や業務時間外の場でいろいろと質問をさせていただき、そこで、1つ印象に残ることがありました。それは、ある1つ単純な質問に対しても、自分の考えはどういう背景があるためこう考える、といったように多くの答えを返してくれるのです。1つの受け答えに対しても、社会人としての「責任」を感じることができました。

これから社会に出る身として、インターンシップで体験したこと、また感じた事を大きな糧にしていきたいです。

## インターンシップ報告

ビジネスコミュニケーション学専攻1年  
三浦 輔

私は、8月24日から9月11日までの3週間の間、いわき市役所小名浜支所市民課にてインターンシップを行いました。

いわき市役所小名浜支所はいわき市の業務のうち、小名浜地区、江名地区、鹿島地区などを担当する出張所であり、広い範囲の市民に密着した業務を行っています。私がインターンシップを行った市民課は主な業務として、戸籍等の発行事務、畜犬登録、選挙等の各種事務などを担当しています。



実習生として市民課の総務係、市民係、保健衛生係の3つの係の業務を体験しましたが、主だったものとして8月30日に行われた衆議院議員選挙、9月13日に行われた市長選挙の

準備業務を担当しました。小名浜地区は27の投票所に分割して投票を行うのですが、投票時の細やかな規定、公平な立場で投票を見守る姿勢など、公務員として多くの心構えを学ぶことができました。



市民啓発活動や期日前投票事務なども体験しましたが、期日前投票の際の投票者の多さから、今回の衆院選、市長選は、多くの市民が選挙に深い関心を示していることがわかりました。選挙に限らず、交通安全運動啓発活動など、啓発活動を通じて市民と会話することで身近な「市」を目指し、よりよい街づくりを行っていくことはとても有意義なことであると感じました。

3週間の間、なれない業務にも職員の方々が丁寧に教えてくださったため、とても働きやすい環境でした。そのような環境の中、インターンシップを通して市の業務を学べたことは私にとって大きなプラスになったと思います。この体験を生かし、今後の進路、そして研究等に役立てたいと思います。





# ミニ研究発表会

教務主事補 内田修司

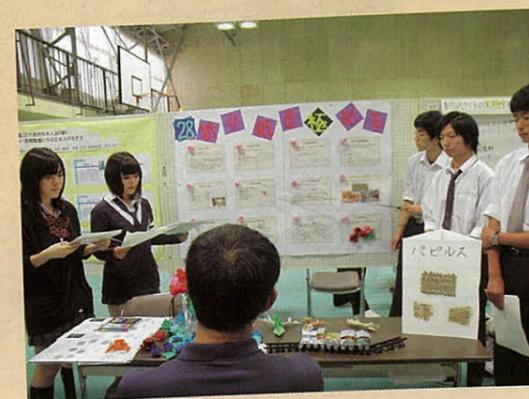
9月28日第4回のミニ研究発表会を第一体育館で開催しました。平日の開催にもかかわらず、保護者の皆様にはご来場頂きありがとうございました。

ミニ研究は、平成17年度から2年生に導入した新しい科目(前期必修一般科目1単位)です。この科目は、低学年のうち「自分で調べる・考える・文章にまとめる・報告する・人前で発表する」という過程を経験(訓練)することで、個々の能力を高めることを目的に導入されました。4年生のセミナー、5年生の卒業研究など高学年では、専門学科教員による学生指導は高専の専門教育として高く評価されてきています。これに対して2年のミニ研究は、一般教科の教員を含む全教員が指導者となり、5学科の2年生全員が履修する科目となっています。その結果、ミニ研究では、学科や専門の枠を越えた学習活動が展開され、福島高専の特色ある教育のひとつとなっています。

ミニ研究のテーマは、教員がそれぞれの専門分野などから設定し、1学生末にテーマを公開します。学生は、やってみたいテーマを選ぶところから活動が始まります。活動

は1名の教員が5名の学生の指導をするグループ制、学科の異なる学生と一緒に課題に取り組みました。前期の時間割では、火曜と木曜の午後一番最後の時間帯にミニ研究を設定しました。活動時間は時間割に従って毎週、テーマによっては毎日、さらに夏休み中も行われ、「調べる、考える、作る、試す、文章にまとめ、報告する」訓練が続きました。時間割的には30時間が目安となりますが、どのグループも規定時間以上の活動を記録しています。これらの取り組みや成果を説明するのが、ミニ研究発表会でした。発表会では、ミニ研究の中の「人前で発表する」訓練や経験するだけでなく、発表の態度や質疑などが発表点として評価されるため、どのグループも説明やポスター作成、製作物の展示などに工夫がありました。教室では見ることができないような表情、取り組みへの真剣さが伝わる発表が多く、会場は活気と熱気で一杯でした。昨年度から2年生の保護者の皆様に発表会の開催のお知らせをしておりますが、発表会が平日の開催となるため、多くの皆様にご覧頂けないのが本当に残念でなりません。ご来場いただいた保護者アンケートでは、発表している学生への励ましなどを頂くことができ、この活動のご理解と高い評価を頂いたものと感謝しております。

今後は学生(学習者)と教員(指導者)に対するアンケート調査、来年度の実施テーマの募集を行うなど、次年度への準備作業に移行します。



# 1日体験入学を終えて

入学者対策専門部会長 森川 治

今年で15回目を迎えた1日体験入学は、インフルエンザのため、8月8日(土)午前・午後、9月26日(土)午前の1日半で実施しました。例年通り、午前中はいわき地区を、午後はいわき地区以外を対象としました。下記のような例年通りの日程で、計画通り実施することができました。

午前の部	日 程	午後の部
8:00~ 8:20	受 付	12:30~12:50
8:20~ 8:50	開 校 式	12:50~13:20
9:00~11:55	デモ実験見学	13:30~16:25
12:00~12:10	閉 校 式	16:30~16:40

閉校式終了後、希望者による学寮見学

ここ数年の参加者数は、16年度611名、17年度838名、18年度781名、19年度687名、20年度687名と減少傾向が続いていましたが、今年度は、790名の多くの参加を得ました。中学生は昨年度より70名多い534名、保護者は38名多い233名の参加を得ました。

参加者数	生徒	教諭	保護者	合計
いわき地区	398名	21名	121名	540名
いわき地区以外	136名	2名	112名	250名
合 計	534名	23名	233名	790名



今年の各学科のデモ実験のテーマと内容を紹介します。

## 機械工学科

テーマ“君のモノづくりが世界を変える”のもと、「①学科紹介 ②オリジナルストラップを作ろう ③ライトレーサーで遊ぼう ④市民に役立つモノづくり」のデモ実験が行われました。



## 電気工学科

テーマ“ふれてみよう電子情報の世界”のもと、「①モノから者へのインターフェイス ②磁気浮上テクノロジーで「ナノ」と「メガ」に挑戦」のデモ実験が行われました。



## 物質工学科

テーマ“化学への招待—物質工学科の実験をみて、そして体験してみよう—”のもと、「①スライムを作ろう ②酵素パワーを見てみよう」のデモ実験が行われました。



## 建設環境工学科

テーマ“環境にやさしい建設技術”のもと、「①地震から街を守るには？ ②こんなまちに住みたいな」のデモ実験が行われました。



## コミュニケーション情報学科

テーマ“Reach Your Dreams!”のもと、「①学科紹介ビデオ ②英語劇 ③経営情報つてなに」の発表が行われました。



インフルエンザのため皆様にはご迷惑をおかけしましたが、好評のうちに1日体験入学を終了することができました。厚くお礼申し上げます。

## 交流コーナー

“本校からのメッセージ”ということで、①学校紹介コーナー ②入試相談コーナー ③休憩コーナーを準備し、休憩時間などに自由に見学したり相談できるようにしました。

## 実演コーナー

第20回知能ロボットコンテストチャレンジコースにおいて準優勝を収めた分子生物愛好会がロボットの实演を行いました。

閉校式後、アンケート(回答数 中学生494、引率者210)を実施しました。非常に好評でした。以下にアンケートの主な項目を挙げます。

### 1. 見学時間について

見学時間	生徒	引率者	全体
短い	11.3%	2.5%	8.8%
ちょうど良い	80.1%	88.1%	82.4%
長い	8.5%	7.5%	8.2%
無回答	0.1%	1.9%	0.6%

冷夏のためか、「長い」と感じた参加者が、例年より少ないようです。大部分の参加者は、適度な長さと感じられています。

### 2. どの学科が良かったですか？ (複数回答)

良かった学科	生徒	引率者	全体
機械工学科	47.4%	43.3%	46.2%
電気工学科	50.8%	46.8%	49.6%
物質工学科	75.9%	63.2%	72.2%
建設環境工学科	31.2%	35.3%	32.4%
コミ情報学科	45.1%	38.8%	43.3%
無回答	0%	0%	0%

各学科とも大変好評だったようですが、物質工学科が抜き出ているようです。特に「スライムを作ろう」が中学生の興味を引いたようです。

### 3. 志望校を選ぶ場合の条件は何ですか (複数回答)

条件	生徒	引率者	全体
就職率の高さ	58.5%	65.2%	60.4%
進学(編入学)の実績	54.5%	62.2%	56.7%
専門的教育	47.4%	70.1%	54.1%
学校の雰囲気	52.3%	36.8%	47.8%
部活・クラブ活動	26.1%	8.5%	21.0%
学費	18.2%	13.9%	17.0%
通学が便利か	17.8%	12.4%	16.3%
生活指導	10.5%	2.5%	8.2%
寮の有無	10.5%	2.5%	8.2%

昨年度同様、「就職率の高さ」「進学(編入学)の実績」「専門的教育」「学校の雰囲気」が重要視されています。また、「部活・クラブ活動」を除いて中学生と引率者に殆ど差はないと言えます。

高専体育大会の結果

一東北地区大会— 秋田大会

■陸上競技 (男子)

学校対抗		第1位
100m	高木 聖人 (2K)	第2位
800m	伊藤 良 (5M)	第1位
1500m	勝沼 将人 (4C)	第3位
5000m	猪 孝一 (5M)	第1位
"	藁谷 誠人 (3E)	第3位
110mH	星 尚之 (5I)	第1位
4×100mR	(吉田(1K)・佐藤・高木・星)	第3位
4×400mR	(星・高木・佐藤・伊藤)	第2位
走高跳	高橋 智大 (3K)	第2位
走幅跳	佐藤 義剛 (4M)	第1位
"	高木 聖人	第2位
"	大澤 晋作 (5M)	第3位
三段跳	佐藤 義剛	第1位
"	大澤 晋作	第3位
砲丸投	星 尚之	第1位
"	吉田 出 (3E)	第3位
円盤投	吉田 出	第1位
"	高萩 滋光 (4M)	第3位
やり投	高萩 滋光	第1位
"	佐藤 博紀 (3M)	第3位

■陸上競技 (女子)

学校対抗		第2位
100m	小野 花也 (3I)	第3位
4×100mR	(高倉・小野・小椋・永久保)	第2位
走幅跳	小野 花也 (3I)	第1位
"	高倉亜紀子 (1K)	第3位

砲丸投 永久保美樹 (2I) 第2位  
やり投 永久保美樹 第1位  
" 小椋 優奈 (1C) 第2位

■バスケットボール (男子) 第3位

■バスケットボール (女子) 第2位



■卓球 (男子)

団体戦		第2位
シングルス	丹野 淳 (5K)	第1位
"	今野 直人 (5M)	第3位
ダブルス	丹野 淳	
"	水野 潤樹 (5K)	第1位
"	今野 直人	
"	吉田 圭佑 (4C)	第3位

■卓球 (女子)

シングルス	安島 真理 (3I)	第1位
"	小野 緑 (3K)	第2位
"	安島 恵理 (3I)	第3位
ダブルス	猪狩 美咲 (3C)	第1位
"	安島 真理	
"	小野 緑	第2位

■剣道 (男子) 第3位  
■テニス (男子) 第1位

団体戦		第1位
シングルス	小池 亮輔 (5M)	第2位
"	武田 章宏 (3K)	第3位
ダブルス	武田 章宏	
"	小池 亮輔	第1位

■テニス (女子)

団体戦		第1位
シングルス	四家 彩渚 (5C)	第1位
"	塚本 仁美 (3I)	第2位
"	海野 沙織 (5C)	第3位
ダブルス	四家 彩渚	
"	塚本 仁美	第1位
"	海野 沙織	
"	横田 愛梨 (4C)	第2位

仙台大会

■ソフトテニス (女子) 第1位

個人戦		第1位
田中 朝美 (4I)		
三浦 克恵 (3C)		

■柔道 (女子) 第1位  
■水泳 (男子)

学校対抗		第1位
100m自由形	藁谷 庄平 (5M)	第1位
"	西間木悠輔 (3M)	第2位
200m自由形	藁谷 庄平	第1位
400m自由形	佐藤 祐樹 (1M)	第1位



800m自由形	佐藤 祐樹	第1位
100m背泳ぎ	蛭田 昌孝 (5M)	第1位
100m平泳ぎ	浅田紳太郎 (5M)	第1位
200m平泳ぎ	浅田紳太郎	第1位
100mバタフライ	山口 修平 (2K)	第3位
200m個人メドレー	山口 修平	第1位
400mリレー	(藁谷・佐藤・山口・蛭田)	第1位
800mリレー	(佐藤・山口・蛭田・藁谷)	第1位
400mメドレーリレー	(蛭田・浅田・山口・藁谷)	第1位

■水泳 (女子)

学校対抗		第3位
200m自由形	猪狩あゆみ (3M)	第2位
100m平泳ぎ	高橋 奈々 (3I)	第2位
200m平泳ぎ	高橋 奈々	第2位
100mバタフライ	猪狩あゆみ	第3位

■バドミントン (男子) 第3位

団体戦		第3位
-----	--	-----

■バドミントン (女子) 第2位

団体戦		第2位
ダブルス	渡部 友美 (5E)	
"	佐藤 春香 (3C)	第3位

一全国大会—

■陸上競技 (男子)

都城高専 (宮崎県総合運動公園 陸上競技場)		第22位
学校対抗		第22位
100m	高木 聖人 (2K)	予選敗退
800m	伊藤 良 (5M)	予選敗退
1500m	勝沼 将人 (4C)	予選敗退
5000m	猪 孝一 (5M)	予選敗退
"	藁谷 誠人 (3E)	予選敗退
110H	星 尚之 (5I)	棄権
4×400mR	(大勝・高木・佐藤・伊藤)	予選敗退

走高跳	高橋 智大 (3K)	予選敗退
走幅跳	佐藤 義剛 (4M)	予選敗退
"	高木 聖人	予選敗退
三段跳	佐藤 義剛	第4位
"	大澤 晋作	予選敗退
砲丸投	星 尚之	棄権
"	吉田 出 (3E)	予選敗退
円盤投	吉田 出	予選敗退
"	高萩 滋光 (4M)	予選敗退
やり投	高萩 滋光	第5位
"	佐藤 博紀 (3M)	予選敗退

■陸上競技 (女子)

走幅跳	小野 花也 (3I)	予選敗退
砲丸投	永久保美樹 (2I)	予選敗退

■卓球 (男子)

大分高専 (別府市総合体育館)		予選敗退
シングルス	丹野 淳 (5K)	予選敗退
ダブルス	丹野 淳	
"	水野 潤樹 (5K)	予選敗退



■卓球 (女子)

シングルス	安島 恵理 (3I)	第3位
"	猪狩 美咲 (3C)	予選敗退
ダブルス	安島 恵理	
"	猪狩 美咲	第1位

■テニス (男子)

有明高専 (熊本県民総合運動公園パークドーム)		1回戦敗退
団体戦		1回戦敗退
シングルス	小池 亮輔 (5M)	1回戦敗退
ダブルス	武田 章宏 (3K)	
"	小池 亮輔	1回戦敗退

■テニス (女子)

シングルス	四家 彩渚 (5C)	ベスト8
"	塚本 仁美 (3I)	1回戦敗退
ダブルス	四家 彩渚	
"	塚本 仁美	第3位
"	海野 沙織	
"	横田 愛梨 (4C)	ベスト8

■ソフトテニス (女子)

鹿児島高専 (霧島市国分運動公園テニスコート)		
個人戦	田中 朝美 (4I)	
"	三浦 克恵 (3C)	1回戦敗退

■柔道 (女子)

大分高専 (別府市総合体育館)		
個人戦 (48kg級)	中藤 夏海 (2M)	第2位

■水泳

都城高専 (宮崎県総合運動公園水泳場)		
学校対抗		第2位
(男子)		
100m自由形	藁谷 庄平 (5M)	第6位
"	西間木悠輔 (3M)	予選敗退
200m自由形	藁谷 庄平	第5位
400m自由形	佐藤 祐樹 (1M)	第1位
800m自由形	佐藤 祐樹	第2位
100m背泳ぎ	蛭田 昌孝 (5M)	第6位
100m平泳ぎ	浅田紳太郎 (5M)	第2位
200m平泳ぎ	浅田紳太郎	第2位
100mバタフライ	山口 修平 (2K)	予選敗退
200m個人メドレー	山口 修平	第5位
400mリレー	(藁谷・佐藤・山口・蛭田)	第2位
400mメドレーリレー	(蛭田・浅田・山口・藁谷)	第2位
(女子)		
100m平泳ぎ	高橋 奈々 (3I)	第5位

高等学校体育大会等の結果

◎第55回福島県高等学校体育大会 県大会

■陸上競技 (男子)  
やり投 佐藤 博紀 (3M) 第5位  
(東北大会出場)

■バスケットボール (男子)  
1回戦敗退

■バレーボール (男子)  
3回戦敗退

■ソフトテニス (男子)  
団体戦 1回戦敗退  
個人戦 柏原 伸也 (2E)  
高橋 憲正 (2I) 1回戦敗退

■テニス (男子)  
団体戦 ベスト8  
ダブルス 武田 章宏 (3K)  
菅野 晃司 (3I) ベスト16

■テニス (女子)  
ダブルス 塚本 仁美 (3I)  
松田 美穂 (3I) 2回戦敗退

■卓球 (男子)  
団体戦 第3位  
シングルス 永井 一喜 (3M) ベスト16  
渡辺 大樹 (3K) ベスト16  
桑嶋 隆 (2M) ベスト16  
松本 知也 (2I) ベスト16  
ダブルス 永井 一喜  
渡辺 大樹 ベスト16

■卓球 (女子)  
団体戦 第2位  
シングルス 安島 真理 (3I) ベスト8  
小野 緑 (3K) ベスト12  
(以上2名、東北大会出場)  
猪狩 美咲 (3C) ベスト16  
安島 恵理 (3I) ベスト16  
ダブルス 小野 緑  
安島 真理 第3位

■剣道 (男子)  
団体戦 1回戦敗退  
個人戦 鈴木惣一郎 (2M) 1回戦敗退

■水泳 (男子)  
100m自由形 吉田 周平 (2M) 予選敗退  
西間木悠輔 (3M) 予選敗退  
200m自由形 北澤 春樹 (2M) 予選敗退  
西間木悠輔 予選敗退  
400m自由形 佐藤 祐樹 (1M) 第3位  
1,500m自由形 佐藤 祐樹 第3位  
(東北大会出場)

100m背泳ぎ 若松 大介 (3E) 予選敗退  
200m背泳ぎ 若松 大介 予選敗退  
100m平泳ぎ 矢羽々寛和 (2M) 予選敗退  
200m平泳ぎ 矢羽々寛和 予選敗退  
100mバタフライ 紺野 貴裕 (1C) 予選敗退  
星 丈弘 (3K) 予選敗退

200mバタフライ 紺野 貴裕 予選敗退  
星 丈弘 予選敗退  
200m個人メドレー 山口 修平 (2K) 予選敗退  
400m個人メドレー 山口 修平 予選敗退  
400mリレー 予選敗退  
800mリレー 予選敗退  
400mメドレーリレー 予選敗退

■水泳 (女子)  
200m自由形 猪狩あゆみ (3M) 予選敗退  
100m平泳ぎ 高橋 奈々 (3I) 予選敗退  
200m平泳ぎ 高橋 奈々 予選敗退  
200m個人メドレー 鈴木 姫花 (1I) 予選敗退  
400m個人メドレー 鈴木 姫花 予選敗退

■空手道 (男子)  
団体戦 予選敗退  
男子個人組手 会田 崇人 (2M) ベスト8  
洲崎 翔太 (2I) ベスト16  
角田 幸司 (3C) 1回戦敗退  
中村 晃太 (2M) 1回戦敗退  
男子個人形 会田 崇人 ベスト8  
洲崎 翔太 ベスト8  
角田 幸司 1回戦敗退  
中村 晃太 1回戦敗退

■バドミントン (男子)  
団体戦 2回戦敗退  
シングルス 佐藤 一貴 (3E) 2回戦敗退  
志賀 匠 (2M) 2回戦敗退  
ダブルス 星野 佑一 (3M)  
佐藤 一貴 2回戦敗退  
佐藤 太一 (1I)  
鈴木 啓人 (1M) 2回戦敗退

■バドミントン (女子)  
団体戦 1回戦敗退

■ボクシング  
バンタム級 村上 和誠 (2M) 第3位

◎第91回全国高等学校野球選手権福島大会  
2回戦敗退

◎第88回全国高等学校サッカー選手権大会  
福島県大会1次大会  
2回戦敗退

◎第62回東北学生陸上競技選手権大会  
男子三段跳 佐藤 義剛 (4M) 第12位  
男子やり投 高萩 滋光 (4M) 第10位

◎第64回東北高等学校陸上競技大会  
男子やり投 佐藤 博紀 (3M) 第24位

◎第63回東北高等学校卓球選手権大会  
女子団体 1回戦敗退  
女子ダブルス 小野 緑



◎第88回全国高等学校サッカー選手権大会  
福島県大会1次大会

◎第62回東北学生陸上競技選手権大会  
男子三段跳 佐藤 義剛 (4M) 第12位  
男子やり投 高萩 滋光 (4M) 第10位

◎第64回東北高等学校陸上競技大会  
男子やり投 佐藤 博紀 (3M) 第24位

◎第63回東北高等学校卓球選手権大会  
女子団体 1回戦敗退  
女子ダブルス 小野 緑

安島 真理 1回戦敗退  
女子シングルス 安島 真理 (3I) ベスト16  
小野 緑 (3K) 1回戦敗退

◎第58回東北高等学校選手権水泳競技大会  
男子400m自由形 佐藤 祐樹 (1M) 予選敗退  
男子1500m自由形 佐藤 祐樹 (1M) 第2位  
(全国大会出場)

◎第77回全国高等学校選手権水泳競技大会  
男子1500m自由形 佐藤 祐樹 (1M) 予選敗退

◎第62回福島県総合体育大会 県大会  
■陸上競技 (男子)  
走幅跳 吉田 将大 (1K) 第7位

■バスケットボール (男子)  
1回戦敗退

■バレーボール (男子)  
2回戦敗退

■テニス (男子)  
【男子I部】  
シングルス 佐藤 正隆 (2C) 2回戦敗退  
武田 章宏 (3K)  
ダブルス 菅野 晃司 (3I) ベスト8  
大平 悠介 (3E)  
須田 拓馬 (3E) 2回戦敗退

【男子II部】  
シングルス 五十嵐達也 (1C) 2回戦敗退  
ダブルス 五十嵐達也  
蛭田 泰弘 (1E) 1回戦敗退  
黒田 広輝 (1M)  
岡田 敦 (1E) 1回戦敗退

■テニス (女子)  
【女子I部】  
シングルス 塚本 仁美 (3I) ベスト16  
松田 美穂 (3I) 2回戦敗退  
ダブルス 塚本 仁美  
松田 美穂 1回戦敗退

【女子II部】  
シングルス 鈴木 彩美 (1C) 1回戦敗退

■卓球 (男子)  
学校対抗戦 ベスト8  
シングルス 松本 知也 (2I) ベスト16  
吉田 貴郎 (3C) 4回戦敗退  
桑嶋 隆 (2M) 4回戦敗退  
佐藤 勇人 (2K) 4回戦敗退  
永井 一喜 (3M) 3回戦敗退  
猪狩 一哉 (3K) 3回戦敗退  
江尻 義史 (3K) 3回戦敗退  
内田 権一 (3C) 2回戦敗退  
渡辺 大樹 (3K) 2回戦敗退  
大浦 昌也 (1E) 2回戦敗退  
佐藤 洋平 (1E) 2回戦敗退

■卓球 (女子)  
シングルス 安島 真理 (3I) 第2位  
小野 緑 (3K) 第3位  
(以上2名、東北大会出場)

シングルス 猪狩 美咲 (3C) 第4位  
安島 恵理 (3I) 4回戦敗退  
小野 仁美 (2I) 4回戦敗退  
金成 亜実 (1I) 3回戦敗退



■水泳 (男子)  
【成年の部】  
50m自由形 藁谷 庄平 (5M) 第1位  
坂本 龍一 (4M) 第3位  
鈴木 達也 (4I) 第4位  
100m自由形 小林 拓真 (4C) 第3位  
50m背泳ぎ 鈴木 達也 第1位  
100m背泳ぎ 蛭田 昌孝 (5M) 第1位  
鈴木 達也 第2位  
永久保祐樹 (4I) 第3位  
50m平泳ぎ 植田 耕平 (5K) 第1位  
100m平泳ぎ 浅田紳太郎 (5M) 第1位  
50mバタフライ 永久保祐樹 第1位  
五十嵐大輝 (5E) 第3位  
200m個人メドレー 坂本 龍一 第1位  
五十嵐大輝 第2位

【少年の部】  
50m自由形 大和田瑞生 (1C) 予選敗退  
吉田 周平 (2M) 予選敗退  
100m自由形 西間木悠輔 (3M) 予選敗退  
吉田 周平 予選敗退  
400m自由形 佐藤 祐樹 (1M) 第3位  
北澤 春樹 (2M) 予選敗退  
100m背泳ぎ 若松 大介 (3E) 予選敗退  
100m平泳ぎ 矢羽々寛和 (2M) 予選敗退  
100mバタフライ 紺野 貴裕 (1C) 予選敗退  
星 丈弘 (3K) 予選敗退  
200m個人メドレー 山口 修平 (2K) 予選敗退  
400mリレー 第11位  
400mメドレーリレー 第10位

■水泳 (女子)  
【少年の部】  
200m自由形 猪狩あゆみ (3M) 予選敗退  
100m平泳ぎ 高橋 奈々 (3I) 予選敗退  
200m個人メドレー 鈴木 姫花 (1I) 予選敗退

■空手道 (男子)  
男子個人組手 会田 崇人 (2M) 2回戦敗退  
洲崎 翔太 (2I) 2回戦敗退  
中村 晃太 (2M) 1回戦敗退  
男子個人形 会田 崇人 3回戦敗退  
洲崎 翔太 2回戦敗退  
中村 晃太 1回戦敗退

■バドミントン (男子)  
シングルス 志賀 匠 (2M) 2回戦敗退  
ダブルス 的場 駿介 (3E)  
志賀 匠 3回戦敗退

- ダブルス 佐藤 太一 (1I)
- 鈴木 啓人 (1M) 2回戦敗退
- バドミントン (女子)
- シングルス 佐藤 春香 (3C) 2回戦敗退
- ダブルス 佐藤 春香
- 渡辺 千尋 (3I) 2回戦敗退

- ◎第36回東北総合体育大会 (卓球競技)
- 安島 真理 (3I) 出場
- 小野 緑 (3K) 出場
- ◎第36回東北総合体育大会 (サッカー競技)
- 蛭田 隼 (1K) 出場
- ◎第64回国民体育大会 (サッカー競技)
- 蛭田 隼 (1K) 出場

各種大会等の結果

- 吹奏楽部
- 第47回福島県吹奏楽コンクール
- 金賞 (県代表)
- 全日本吹奏楽コンクール 第52回東北大会
- 金賞

- 将棋部
- 第45回全国高等学校将棋選手権大会福島県大会
- 個人戦 博多 大樹 (3E) ベスト8
- 長谷川 涼 (3E) ベスト16
- 大竹 剛史 (3K) ベスト16
- 浦住 僚 (2C) ベスト16
- 阿部 直樹 (2E) 予選敗退
- 猪狩 直也 (2C) 予選敗退
- 芳賀 正幸 (2C) 予選敗退

- 第22回全国高等学校将棋竜王戦福島県大会
- 個人戦 永井 駿 (3I) ベスト8
- 長谷川 涼 (3E) ベスト16
- 大竹 剛史 (3K) ベスト16
- 浦住 僚 (2C) 3回戦敗退
- 博多 大樹 (3E) 2回戦敗退
- 猪狩 直也 (2C) 2回戦敗退
- 芳賀 正幸 (2C) 2回戦敗退
- 阿部 直樹 (2E) 1回戦敗退

- 第16回全国高等専門学校将棋大会
- 団体戦 予選敗退
- 個人戦 永井 駿 (3I) 2回戦敗退
- 阿部 直樹 (2E) 1回戦敗退
- 大竹 剛史 (3K) 予選敗退
- 猪狩 直也 (2C) 予選敗退

- エネルギー研究会
- 第11回全日本ソーラーカー&FCカーチャンピオンシップ
- JISFC・WSR 総合14位
- JISFC・F2 第1位
- ソーラーカー部門 第1位

- 分子生物愛好会
- 第21回知能ロボットコンテスト2009
- ・堀越くまさんペンタくんA
- マシン名「ラビ」
- 舟木 理恵 (3C)・志賀 論 (3C)
- 2次予選敗退
- ・堀越くまさんgemini
- マシン名「蛇腹」
- 田家 亘 (2C)・岩崎 真歩 (2C)

- 桑野 夏希 (2C)・長谷川敦美 (2C)
- 1次予選敗退



- 写真部
- ・いわき地区高等学校写真連盟合同撮影会 参加
- ・第34回関東信越地区高専文化発表会 参加
- ・松が丘公園桜撮影会 実施
- ・ひたち国際大道芸撮影会 実施
- ・東北地区高専体育大会撮影 実施

- 茶華道部
- ・いわき学校茶道連盟 第27回合同発表会 参加

- サイクリング部
- ・磐梯山周辺 春季ツーリング (第28回桧原湖FC) 実施
- ・乗鞍岳登坂 夏季ツーリング (長野県松本市) 実施



- ラグビー部
- ・いわき市7人制大会 第5位
- ・高月ラグビーフェスティバル 参加
- ・東北地区高専ラグビー講習会 参加
- 山岳部
- ・安達太良山 7月例会山行 実施



写真提供：写真部 佐藤大志他、サイクリング部、山岳部

今年の高専ロボットコンテスト 東北地区大会

高専ロボットコンテスト指導教員 物質工学科 天野 仁司



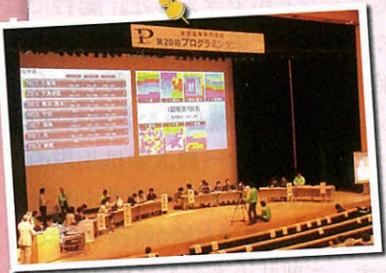
今年の課題と日程は過酷でした。全国でもっとも早く10月4日に鶴岡で行われた東北地区大会は、試合よりアイデア披露の方が楽しめたと思います。おそらくどこの高専も、もう少し時間があればと思ったことでしょう。課題は8種類、それも歩行ロボット2台の協調した動作や、力技が必要なものばかりだったからです。本校は、例年とは違いロボットの製作・調整時間も制限され、さらに新型インフルエンザの影響で活動できない日や、大会直前の操縦者とピッ

トクルーの交代というアクシデントもありました。その結果、A、Bの2チームで三つの賞を獲得しただけに終わり、全国大会出場権は得られませんでした。このような困難な状況下での活動としては、よく頑張ったと思います。特にAチームは、勝負には負けましたが、アイデア披露やエキシビジョンにおいて、その豪快な動きで会場を大いに沸かせました。ぜひ同じ、いやこれ以上の感動を呼び起こす勇姿を、全国大会で披露したかったと、その場にいた本校の学生、ご家族、教職員の誰もが思ったことと思います。



全国高等専門学校第20回プログラミングコンテスト

高専プログラミングコンテスト指導教員 コミュニケーション情報学科 島村 浩



10/17(土)・18(日)に木更津高専が主管で行われた全国高等専門学校第20回プログラミングコンテストについてご報告いたします。

更津高専が学校閉鎖になった場合は、大会中止という緊張の中で始まりました。そのため、20周年大会行事として、木更津高専が独自に企画した小中学生を呼ぶイベントが中止になったり、インフルエンザによる学校閉鎖や学級閉鎖の影響で、参加を見合わせた高専もありました。

引率は、電気工学科の小泉康一先生にお願いしました。場所は、木更津市の「かずさアカデミアホール」という大変立派な施設でした。例年通りの課題・自由・競技の3部門で行われ、本校は課題と競技に出場しました。結果は、課題部門が佳作、競技部門は1回戦敗退、敗者復活戦も敗退と、残念なものでした。

来年は、高知高専が主管となって高知で開催予定です。高学年のチームを主に3部門参加を目指して、頑張る所存です。今後ともご理解、ご支援をお願いいたします。



今回は、新型インフルエンザの影響で、木



## 全日本学生ソーラー&FCカーチャンピオンシップに参加して

エネルギー研究会顧問 伊藤 淳

8/10~12の日程で、今年も秋田県の大瀧村でソーラーカーの大会が開催されました。

一般の部のワールドソーラーカーラリー（WSR）と学生の部の全日本学生ソーラー&FCカーチャンピオンシップ（JISFC）が同時開催されます。競技は太陽からのエネルギーとバッテリーに蓄えたエネルギーを頼りに、1周25kmのコースを3日間で25時間走行し、その総周回数で競われます。

今年はWSRとJISFC合わせて20チームほどが参加しました。太陽電池のほか、燃料電池を搭載した車両や、太陽電池と燃料電池のハイブリッドの車両も参加しています。充電用に搭載するバッテリーは鉛蓄電池のほかリチウムイオンのものが使用されたり、車体には炭素繊維を使用して軽量化を図ったり、先端の技術が取り入れられていました。

我々エネルギー研究会では、学生による手作

りの車体で第1回大会から連続して参加しています。晴天の場合は快調に走行するものの、曇天や雨天では、速度を落とすことになり、天候に大きく左右されます。また、25時間の間には、様々な電氣的、機械的トラブルが起こり、チーム一丸となって解決しなくてはなりません。今年も充電不良や車輪がロックするなど深刻なトラブルに見舞われましたが、無事完走し、トータル23周（575km）の走行で、JISFCの部門で念願の優勝を果たすことができました。総合ではトップクラスのチームに追いつくことは難しいものの、来年に向けて車体の改良を行い、今年より少しでもよい記録に挑戦したいと思います。なお、大瀧村のソーラーカーの大会は小説の題材として取り上げられ（濱野京子氏著：レッドシャイン、講談社刊）、実は本校がモデルとして登場しています。ご興味のある方は是非どうぞ。



## 第16回全国高専将棋大会参加報告

将棋部顧問 大槻 正伸

この8月24日~26日にかけて、第16回全国高専将棋大会が、豊田高専が主管し愛知県蒲郡市で開催されました。全国高専将棋大会は、第1回が平成6年に秋田高専で開催されました。第1回大会は、当時秋田高専教授の米長泰先生（現日本将棋連盟会長の米長邦雄永世棋聖の実兄）のご努力で実現し、以来毎年開催されております。

米長泰先生は秋田高専を定年で退官された後も毎年審判長として活躍されております。

福島高専は第1回大会から毎年連続16回出場しておりますが、今年は2E阿部直樹君、2C猪狩直也君、3K大竹剛史君、3I永井駿君の4名が出場しました。

今回はお隣茨城高専も初出場するなど、参加32高専、参加者約150名と大きな大会となりました。

過去福島高専は第3回大会では団体戦3位、第4回大会を主管、第5回、第6回と連続して団体戦3位、第10回では個人戦3位と活躍してきました。しかしこのところ出場する高専生のレベルが非常に上がり、個人戦など予選リーグを勝ち抜けるのもなかなか容易でなくなってきました。

今回の結果ですが、団体戦（猪狩君、大竹君、永井君の組が会場）は1回戦で阿南高専に破れ敗退しました。しかし個人戦では、永井君、阿部君の2名が予選リーグを勝ち抜け、決勝トー

ナメント出場（ベスト64入り）し、さらに永井君は1つ勝ちベスト32まで勝ち残りでしたが、2回戦で強敵鈴鹿高専の太田選手に破れました。しかし150名近くの強豪たちの中でのベスト32はかなりの奮闘であったと思います。

また大会中はプロ棋士の中田章道七段、室田伊緒女流初段がゲストとして招待され、大会に出場した全国高専生を相手に指導対局をして下さいました。プロの先生の指導対局を受けることもこの大会に出場する高専生にとって大きな楽しみになっています。

さて、来年の第17回大会は明石で、さらに第18回大会は富山で実施されることが決まっております。次回の大会にむけて、将棋部は後期の活動を本格的に始動したところです。



# 新任教職員紹介



●機械工学科 鄭 耀陽 *Tei Youyou*

今年4月から機械工学科に着任しました。自分の経験から教える、教わるということのみは教育本来の目的ではなく、学生諸君をぐいぐいと自分の理想に近づけさせていくことを第一指針として励んでまいりたいと考えております。

そのためには、皆さんの協力なしには叶わないので、願わくは皆さんが個々の目標を持ち、勉学に励んでもらい、私は企業・大学等の勤務経験を生かし、諸君たちの目標達成に一助出来れば幸いと存じます。



●コミュニケーション情報学科 田淵 義英 *Tabuchi Yoshihide*

コミュニケーション情報学科の田淵義英です。このたび、現代GPの担当助教として赴任致しました。専門は社会哲学、とくに資本主義と消費社会に関して批判的に研究しています。一年間の任期付きで赴任致しましたので、短い期間ではありますが、どうぞよろしくお願い致します。



●学生課長 沓澤三喜雄 *Kutuzawa Mikio*

4月1日付けで、東北大学入試課から本校に赴任しました。出身は山形県真室川町ですが、現在は宮城県名取市です。高専での勤務は2回目で、以前宮城高専に3年間勤めました。高専の現状は、運営交付金の減少、人員削減など高専の取り巻く環境は厳しい状況にあります。教職員一体となってこの難局を乗り越えて行きたいと思っております。そのためにも少しでもお役に立ちたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。



●総務課長補佐(財務担当) 金丸 治源 *Kanemaru Harumoto*

4月1日から、総務課に赴任しました金丸治源です。氏名の読みは、かねまる はるもとです。早いもので、あっという間に半年が過ぎてしまい、もう、錦秋の季節となってしまいました。趣味は、多趣味で、登山・天文・アマチュア無線・カメラなどです。単身赴任の自由な時間を趣味に活かそうとひそかに考えておりましたが、未だに宿舎にぼつんといるだけで、何もしていない状況です。これから、皆様のお力を借り、また、皆様と力を合わせて、本校のため微力ながらがんばりますので、どうぞよろしくお願い致します。



●学生課長補佐 杉内 静 *Sugiuchi Shizuka*

今年4月にまいりました、学生課長補佐の杉内静(すぎうちしずか)です。なかなかうまく対応できず心苦しく感じております。ところで、小名浜の宿舎に時々耳慣れない音が聞こえてきて「なんだろう」と思っていました。船の霧笛の音と気づきました。「霧笛が俺を呼んでいる」とつぶやきながら納豆ごはんを食べたりしています。今後、ねばり強くがんばりたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。



●総務課人事係長 齋藤 信幸 *Saitou Nobuyuki*

4月より、福島大学から人事交流で赴任いたしました。伊達市(月舘)の出身ですが、同じ県内ながらいわきの気候の快適さに驚いています。大学でも人事関係業務に従事してまいりましたので、これまでの経験を生かしながら、精一杯頑張りたいと思います。また、人事面での業務のほか、人のつながりという点から大学との連携などにもお役に立てればと考えております。微力ではありますが、どうぞよろしくお願い致します。



●総務課員 佐藤 瑠美 *Satou Rumi*

4月1日付けで総務課地域連携係に採用になりました佐藤瑠美です。地元はいわき市(泉)で、今年3月に福島高専専攻科を修了いたしました。慣れ親しんだ学校で社会人としてスタートを切ることができ、大変うれしく思っています。学生として7年間通った学校ですが、職員としての生活は新鮮で充実した毎日を送らせていただいています。まだまだ半人前でございますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



●総務課員 吉田 隆敬 *Yoshida Takayuki*

4月より総務課施設管理係へ配属となりました吉田隆敬と申します。以前は化学メーカーで技術員をしておりましたが、今回、事務職員として採用いただきました。学校運営に携わるのは初めてのことで、一から学んでいく所存です。校舎の修繕などで、校内を歩き回っていることも多いかと思います。学生が快適かつ安全に過ごせるよう頑張りますのでどうぞよろしくお願い致します。



●モノづくり教育研究支援センター技術職員 大和田光宏 *Oowada Mitsuhiro*

昨年の9月1日付けで採用になりました大和田光宏です。平成19年3月に本校機械工学科を卒業し企業で働いていましたが、このたび技術職員として戻って参りました。主に、機械の実習や実験等を担当しています。学生時代には高専ロボコンに参加していましたのでそちらでも力になれるよう頑張っていきたいと思っております。ご迷惑をおかけすることもあると思っておりますが、よろしくお願い致します。



### モノづくり教育研究支援センターが発足

「モノづくり教育研究支援センター」は、専門的な教育研究支援スタッフである技術職員による教育研究業務の技術支援体制強化を目的に、平成21年4月1日に発足した。技術職員が協調・連携して効率的かつ計画的に、学生の実習・実験教育への支援、実習工場の管理運営、学内の各種教育・研究支援、技術・技能支援をおこなうとともに、公開講座や技能講習など、地域住民や地域産業への組織的な貢献を行っている。

「モノづくり教育研究支援センター」では、センター長(校長兼務)の下に、技術長(代行)と2グループのグループ長を含め、常勤12名、パートタイム3名の技術職員が、組織的・継続的に職員の相互研修を行い、組織としての技術力向上を図って、専門技術支援職務にあたっている。



左：江尻勝紀技術長代行 右：奈良宏一センター長

### 専攻科1年の鈴木定太さんが「電気学会優秀論文発表B賞」受賞

本校専攻科1年の鈴木定太さんは、福島高専5年在学時に「電気学会優秀論文発表B賞」を受賞し、4月24日に東北大学工学部で行われた授賞式に出席した。同賞は電気学会の各支部大会で発表された論文のうち、優秀な発表者に贈られるものである。同賞の高専学生の受賞は、平成20年に全国で4件あったが、他の3件は専攻科生の受賞であり、高専5年生での受賞は鈴木定太さんだけであった。

鈴木定太さん(当時19歳)は、同校電気工学科在学中に卒業研究で取り組んだ「永久磁石軌道上で磁気支持された配列バルク超電導体試料の水平方向の電磁力特性比較」を、平成20年8月に福島県郡山市の日本大学工学部で開催された「電気関係学会東北支部連合大会」で発表した。この論文では、特別な配列をした超電導バルク材の永久磁石上での磁気支持力に関し、水平方向に作用する電磁力に対する超電導バルク材の配列効果について報告し、今回の受賞となった。

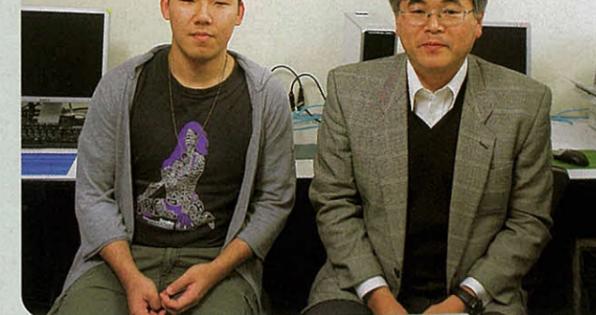


左：伊藤淳教員 中央：鈴木定太さん 右：鈴木晴彦教員

### 専攻科2年の石沢貴教さんが「土木学会東北支部研究奨励賞」を受賞

本校専攻科物質・環境システム工学専攻2年の石沢貴教さんは、平成20年度「土木学会東北支部研究奨励賞」を受賞した。この賞は、土木学会東北支部が毎年5月の通常総会において表彰するもので、当該年度の東北支部技術研究発表会において優れた研究成果を発表した論文の発表者で、36歳未満の支部会員に贈られるものである。

本年3月、仙台市で行われた同学会支部の研究発表の中から、7部門各1名ずつ表彰されたもので、受賞者の中で高専学生は石沢さん一人だけで、最年少での受賞となった。



左：石沢貴教さん 右：原田正光教員

今回の受賞したテーマは、石沢さんが本校5年次と専攻科1年次に取り組んだ「内倉湿原における抽水植物の制御に関する検討」で現在も研究を継続中である。石沢さんは、「これまでの研究の成果が認められてうれしい。この賞を励みに、特別研究最後のまとめに励みたい」と抱負を語っていた。